

## 運輸部

仕事の  
窓

5

### 廃油処理事業について

#### Point

廃油処理施設は、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（以下、海防法）において、海洋汚染の防止の環として船舶からの油の排出が原則として禁止されていることに対応して、船舶において生じた不要な油（廃油）を受け入れ処理するために必要不可欠な施設であり、極めて公共性の高いものです。

一般の需要に応じ、廃油処理施設により廃油を処理する事業（廃油処理事業）を行おうとする者は、海防法第20条の規定により、事業主体が港湾管理者又は漁業管理者の場合は事前届出、その他の者の場合は許可が必要です。

#### 沖縄県内の廃油処理施設数

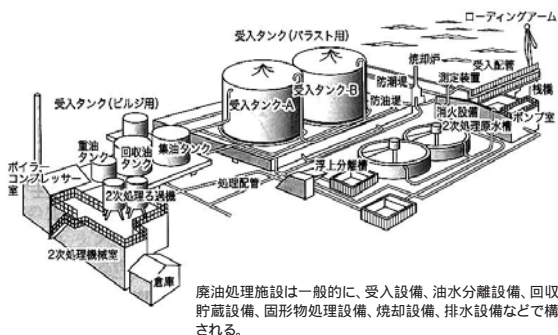
廃油処理施設（届出済）……… 3箇所

民間……… 2箇所

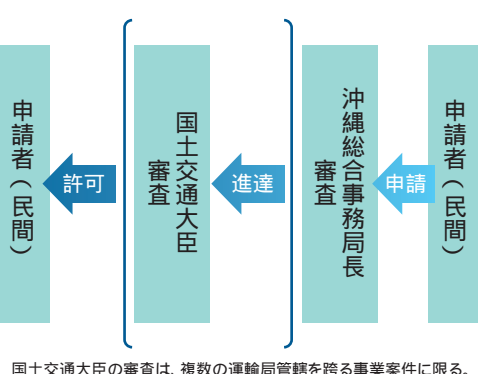
うち 事業用 1箇所  
自家用専用 1箇所

公共（港湾管理者）……… 1箇所  
（平成20年11月21日現在）

#### 廃油処理施設（概略図）



#### 許可申請手続



国土交通大臣の審査は、複数の運輸局管轄を跨る事業案件に限る。

#### 許可基準（審査ポイント）

- 事業の遂行上適切な計画を有するものであること
- 事業の用に供する廃油処理施設が国土交通省令で定める技術基準に適合するものであること
- 申請者が当該事業を的確に遂行するにたる能力を有するものであること
- 欠格条項（過去に申請者が海防法に基づく処分を受けたことがある等）に該当しないこと

### 廃油処理事業

～ 船舶廃油の発生から処理までの流れ～

#### 航行



#### 廃油の発生

廃油はその性状により右のように分類される

#### 寄港・帰港



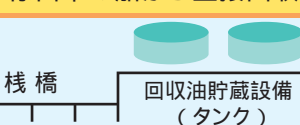
廃油処理事業者に  
廃油の回収を依頼

ビルジ	船舶機関室の潤滑油や燃料油に海水等が混入して船底にたまった油性混合物
水バラスト	船体の安定を図るために貨物艙、二重底等に積載した水に油が混入した油性汚水
タンク洗浄水	貨物油艙又は燃料油艙、潤滑油艙を洗浄する際に発生する油性汚水
コレクトオイル	ビルジを油水分離装置により船内で処理した後の油性混合物
スロップオイル	外航タンカーのタンク洗浄水及びバラストを静置又は重力分離等によって船内処理した後、船内に貯留される油性汚水
スラッジ	貨物油艙又は燃料油艙、潤滑油艙の底に沈殿する油性固形物並びに燃料油、潤滑油の清掃の際に発生する油性固形物

#### 廃油の回収



#### 係留中の船から直接回収



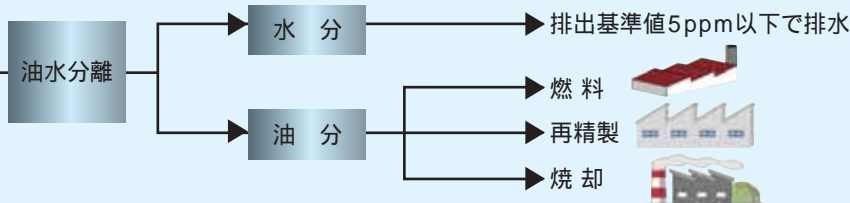
#### タンクローリーで回収・運搬



#### 廃油の処理



民間又は公共の廃油処理施設



問い合わせ先 運輸部総務運航課 098(866)1836